



6天沼中 第341号

令和7年2月27日

杉並区立天沼中学校

自主・自律・共生



いじめの無い学校を目指して

校長 池田 和幸

保護者の皆様には、tetoruにて既に配信させていただいておりますが、3学期頭に「天沼中学校いじめ防止対策基本方針」を改訂いたしました。

主な改訂のポイントは、いじめ対策の組織である学校いじめ対策委員会の他に、いじめの未然防止、早期発見を推進するために、いじめ防止委員会を位置づけ、いじめに対して迅速かつ組織的な対応を行うとともに、未然防止に向けた取組を推進していくことといたしました。

また、いじめが解消した状態の定義が、国や杉並区から示されたことに伴い、いじめが発生してから3ヶ月を目安として、生徒の様子を把握することとしました。いじめが発生した後、指導して終わりとせずに関係回復に向けた取組を行い、その後も一定期間状況を確認していきます。

2月の学校朝会で全校生徒に対して、次のような話をしました。

「いじめのない学校を目指したいと思います。しかし、現実にはいじめのない学校というのは非常に難しい。なぜならば、法律で定められているいじめの定義は、他の生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為で、それを受けた生徒が心身の苦痛を感じているものは全ていじめとなるからです。簡単に言うと、対人関係において何か言われた、何かされて嫌だと思ったらその時点でいじめとなります。ここは中学校です。人間関係の作り方など、学習以外にもまだまだ多くのことを学ぶためにここに通っています。当然、人間関係のトラブルが発生しない訳はありません。トラブルが起こらない方がいいに決まっていますが、トラブルが起こったときにどう対処する必要があるのかを学ぶことはとても大切なことです。それも学校における重要な学びの1つだと思っています。いじめがない学校というのはとても理想ではあるけれど、それを理想とするあまり、いじめを見てもみないふりをする学校になるよりは、すぐにいじめを発見し、適切に対処できる学校でありたいと考えています。そのために大切なことは、「信頼」だと思っています。先生方と生徒の信頼関係がなければ、「いじめられてつらい」と先生に訴える気持ちにならないでしょう。いじめを見た周りの生徒が先生に教えてくれることはないでしょう。天沼中学校は生徒の皆さんから信頼される先生方がいる学校でありたいと思っています。それこそが、いじめのない学校につながっていくと考え

ています。」

今年度、2学期末までのいじめの認知件数は60件でした。昨年度と比較しておよそ5倍弱の件数となっています。しかし、長期間いじめの行為が続いたり、集団でいじめたりするようないじめはありませんでした。件数が多くなっていることは、生徒が直接的、間接的に学校に知らせてくれるようになってきているからこそだと思っています。学校が把握できているという面においては、肯定的に捉えていきたいと考えていますが、1学期末が30件、2学期末が60件といじめの発生頻度が下がっていないことについては、課題として捉えていかなければならないと感じています。本校ではWEBQUという心理検査を年に2度実施し、客観的資料として活用しています。生徒の心の状況、学級の人間関係の状態を把握するようにしています。その1学期と2学期の結果を比較すると、学級の状況が良くなっている傾向を示しているものの、クラス内の人間関係に不安を抱えていたり、自分の思いを表に出せなかったりする生徒が一定程度存在し、生徒同士の関係の構築に課題があることが浮かび上がっています。

近年、多様性の尊重という価値を大切にしようとするようになりました。多様性を受け入れていくためには、お互いの価値観を認め合うことが大切になります。自分が当たり前と思っていても、他者にとっては当たり前ではないことが多くあります。日本人は規範意識が高く、場の空気を読んで生活する民族と言われますが、反面、自分の思いや本音を伝えることが下手だと言われます。一人一人の価値観の違いを受け入れていくためには、それぞれの思いや考えを伝え合い、理解していかなければなりません。対話を通して積極的に関係性を作っていこうとする姿勢がなければ、マイナスな感情をもっている人の思いは伝わらず、多様性の尊重という価値は実現できません。この価値を実現していくためにも、令和7年度は学級活動や学校行事を充実させ、生徒同士の対話や協働して取り組む場面を増やし、本校の生徒の課題として浮かび上がっている生徒同士の良好な人間関係の構築について、改善できるように取り組んでいきたいと考えています。



震災救援所訓練 2月1日(土)

天沼地区の自治体による震災救援所訓練が行われました。震災救援所とは大規模な地震などの災害が発生した際に、被災者の一時的な避難や救護活動を行う施設のことです。被災時の動きを想定した訓練として、発災時の受付の設営から始まり、建物の安全確認、避難者の誘導、物資の確認などを行いました。天沼中学校からは教員やPTA 役員その他、天沼中レスキュー隊、有志のボランティア生徒の9名が参加し、地域の方々と一緒に訓練に取り組みました。

訓練後は地域の方々と一緒に訓練の反省会を行い、天沼地区の防災についての見直し、今後の取組について話し合いました。



1 学年 伝統文化体験(華道・茶道)

1年生の伝統文化体験では華道・茶道の体験を行いました。華道教室・茶道教室の先生方を講師としてお招きし、本格的な体験をすることができました。

華道では、ただ花を美しく生けるだけでなく、日本文化の奥深さや精神性を学びました。

茶道では、お茶を点てる技術だけでなく、礼儀作法や人とのつながりについても学びました。

どの生徒も日本の伝統文化に触れ、緊張しながらも真剣に取り組んでいました。



2 学年 伝統文化体験(和楽器演奏)

2年生の和楽器の授業では、地域の方を講師としてお招きし、箏と三味線の演奏を学びました。各クラス3回の授業を通して演奏技術だけでなく、楽器の各部名称や伝統的な演奏における所作についても教わりました。

また、土曜授業では参観いただいた保護者の方々の前で堂々とした演奏発表を行いました。



3 学年 伝統文化体験(落語) 2月8日(土)

3年生の伝統文化の授業では昔々亭慎太郎師匠をお招きし、落語鑑賞を行いました。

私立入試直前の時期に「笑い」をテーマにした落語を鑑賞できたことは3年生にとってもリラックスできる時間となったと思います。自分から進んで手を挙げて体験に臨む生徒もいました。落語は単なる娯楽ではなく、日本の伝統芸能として様々な文化的・社会的意義をもっています。江戸言葉のような日本語の美しさや表現力についても学ぶことができました。



展示発表会 2月7日(金)~13日(木)



1年間の学習活動の成果を発表する展示発表会を行いました。美術や技術・家庭科、華道部の作品だけでなく、英語・理科・社会・保健体育などで行った探究活動のレポート、レスキュー隊やボランティア活動の活動報告など様々な学習活動の発表が行われました。

展示見学の時間では上級生の工夫を凝らした見事な展示物を見て感嘆する下級生や普段見ることのできない活動の様子を見に来られた保護者の方々の姿がありました。

どの展示も発表した人たちが一生懸命準備したことが伝わってきました。展示準備を手伝ってくれた係生徒や実行委員の皆さん、ありがとうございました。

◎展示発表会 実行委員会

(敬称略)



東京都中学校道徳教育研究会 発表大会 生徒会サミット 2月5日(水)

2月5日は杉並区教育研究会の日でした。天沼中学校は道徳部会の発表会場となり、東京都中学校道徳研究会発表大会が行われました。1・2年生の各クラスでは東京都を代表する6名の先生が生徒と一緒に給食を食べ、道徳の出前授業を行っていただきました。

授業では生徒の考えを引き出す発問と問い返しが工夫されていて、活発に意見を交換し合う様子が見られました。現在大学で教壇に立っていて、会の顧問をされている元校長先生からは「非常に素晴らしい生徒の様子に感動しました」と立派に成長している生徒の姿にお褒めの言葉をいただきました。



また、同日に行われた特別活動部会では生徒会サミットが行われ、生徒会役員7名が参加しました。高円寺学園で行われた生徒会サミットでは「本当の意味での充実とは?～生徒が輝く学校へ～」をテーマに杉並区の複数の学校から生徒会役員が集まり、委員会活動や学校行事に関わる生徒の活動に対して情報交換や議論が行われました。

特別活動とは「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」を指します。ここでは「生徒会活動」に主眼を置き、付せんを使って各校の取組、ねらい、課題を出し合い、特別活動を充実させて、生徒主体の学校を作るにはどうしたらよいかを話し合いました。

初めて顔を合わせた生徒同士ですが、さすが生徒会役員と言える堂々とした議論と意見発表を行うことができました。



保健体育科ダンス発表会について

2月に入り、体育の授業では講師の方をお呼びし、ダンスの授業に取り組みました。基本的なステップを習った後は、各学年で班分けを行い、ダンス発表会にむけて創作ダンスを練習しています。

ダンス発表会は3月10日(月)に行われます。平日の開催となりますが、保護者の方々もぜひご参観ください。

場所：体育館

1年生：2校時

(9:50～10:40)

2年生：3校時

(10:50～11:40)

3年生：4校時

(11:50～12:40)

天中CSコーナー

“30分の懇談会” “天中生の声”を聞きました！！

2月の初旬に、天中生6人から天中での生活と学びについての「実感」を聞く機会を持ってました。教室や校内に「くつろげる居場所」が欲しいというのは、今の「忙しい」「気が抜けない」様子を映し出しているのでしょうか。タブレットを使う授業に慣れてきたけど、一斉に動かすと5分以上の「待機時間」が出来てしまっている。「先生も授業開始時の工夫をしてくれているけど、タブレットの機能や故障についてはなんとかして欲しい」というのは、切実な生徒と教師の悩みなのではないかと思います。

新校舎が出来るまでも生徒らは毎日天中で学びます。「最善の学び空間・卒業しても来なくなる天中づくり」で「大人は何か出来ないかな」と思う“30分の懇談会”でした。